

東海地区

# 学校事務会報

第133号

令和3年3月8日

発行：東海地区公立小中学校事務研究会

<http://tukaijimuken.sakura.ne.jp/>

今年度の各県の研究活動について報告します

## 岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会 研究報告

### 子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務 ー学校経営をサポートする共同実施の推進ー



岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会では、引き続き「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務～学校経営をサポートする共同実施の推進～」をテーマに、活動してきました。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの影響により、県事研の活動においても諸会議の中止、参集しての研修会等の中止など例年になく対応を余儀なくされました。コロナ禍による新しい生活様式の中で、どのような活動・研修ができるのか考える1年となりました。

毎年開催している「事務の日セミナー」については、今年で10回目を迎えました。今年度は「共同実施室長等リーダー研修」を兼ね、初めてWeb方式にて開催しました。チーム学校における事務職員への期待や、学校の働き方改革といった年代を問わずすべての事務職員が考えるべきものと、リーダーシップとマネジメントというリーダー層を意識した内容の研修動画リンクを県事研ホームページに掲載しました。個人での視聴だけでなく、共同実施のグループで動画を視聴し、交流を行った地域もありました。視聴をとおして、それぞれが事務職員の専門性を活かしていくこと、チームの一員としての役割、求められるリーダー像などを学ぶことができたと思います。

コロナ禍の中、研究会の活動が変わりつつあります。新たな研修スタイルを模索しながら、会員の資質向上を目指し、岐阜県版グランドデザインに描かれている“ええ顔”あふれる学校づくりを担う事務職員を支える研修、研究活動を行っていきます。

## 三重県公立小中学校事務研究会 研究報告

### 子どもの豊かな育ちを実現する学校事務 ー（年次テーマ）危機管理体制の徹底ー



研究部では「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を研修主題とした「第8期中期研修計画」の3年目として、「危機管理体制の徹底」をテーマに研修を実施す

る予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大のため全ての研修が中止となりました。

「事務の手引」編集委員会では、学校事務に携わる者が日常の事務の手本として利用し、よりの確な事務処理を行う手助けとなるよう「事務の手引」の改訂作業を行いました。

研修部では三事研広報で会員の声を紹介するとりくみを進めました。また今年度はホームページを一新し、タイムリーな情報発信、WEB配信、スマートフォンでも対応できるように進めています。会員相互のコミュニケーションの場、さらに県外の学校事務職員の方々にも親しんでいただけるようなホームページの運営管理を行っていきます。



## 愛知県公立小中学校学校事務職員研究会 研究報告

### 「子どもたちの笑顔あふれる学校づくりの推進」

～ 企画・提案型の事務職員への変革 ～



愛知県公立小中学校学校事務職員研究会（以下「愛知事務研」という）は、愛知における学校事務のグランドデザイン「第2期あい・学校スマイルプラン」のミッションである「教職員や地域の人々とともに子どもたちの笑顔あふれる学校づくりを進めること」を目指し、学校運営の改善、学校機能の強化をつかさどることのできる「企画・提案型の事務職員」として主体的にその役割を果たしていけるよう、研究を進めてきました。

#### 1 校務運営参画のための研究

研究開発部を中心に、カリキュラム・マネジメントを通じた校務運営参画についての研究を進めました。

#### 2 人財育成の具現化

県大会（令和2年度は紙面開催）を全県規模の研修の一つと捉え、大会を通して学校事務が抱える課題解決の場とする目的を達成するため、「研究のまとめ」を発行し、会員が様々な実践に触れ、直面する問題を考えることができました。

#### 3 関係諸機関・諸団体との更なる協働機能の強化

学校事務職員の職務の見直しや校務運営への参画等、法的・人的・財政的環境整備について、県教委や県校長会など関係諸機関・諸団体に働きかけました。

教育事務所や教育団体を招いて行う学校事務情報交換会も紙面による意見交換となりましたが、研究開発部の発表や情報交換を通し、事務職員の校務運営参画について教育関係機関の方と共に考える機会としました。

今年度は新型コロナウイルス対応のため、多くの事業・会議等において変更を余儀なくされました。これらの経験を生かし、これからの愛知事務研の活動につなげる検討も進めています。



「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を目指して

静岡県公立小中学校事務職員会のテーマ「子どもの豊かな育ちを実現する学校事務」を具現化するため、専門委員会・特別委員会を設置して、活動を推進しました。それぞれの活動内容は次のとおりです。

【専門委員会の活動】

I 研究推進委員会

- ・研究推進委員会の開催（9/25、1/14）
- ・県大会の推進（令和2年度は紙上開催）

II 広報委員会

- ・広報誌「はばたき」WEB版の編集・発行
- ・「学校事務研究集録67号」の編集・発行
- ・ホームページの運営の維持・管理

III 学校事務改善委員会（活動休止）

IV リーダー育成委員会（活動休止）

【特別委員会の活動】

I 事務提要編集委員会

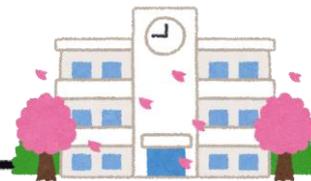
- ・事務提要編集委員会の開催（随時）

II グランドデザイン策定委員会（令和元年度新設）

- ・グランドデザイン策定委員会の開催（9/25、1/14）

# 第52回全事研全国大会(岐阜大会)

## 兼:第52回東海地区公立小中学校学校事務研究大会 報告



第 52 回全国効率小中学校学校事務研究大会 (岐阜大会) 代替事業

大会テーマ 「目指す子ども像を実現するカリキュラム・マネジメント」

— 子どもたちへとどけ 未来へのぎふと —

期日 令和3年1月4日(月)～2月28日(日)

参加者 全国公立小中学校学校事務職員研究会会員

### 内容

①研究報告集の発行・Web掲載 [提=提案原稿 補=補足資料 動=動画]

- 全事研本部 テーマ:目指す子ども像を実現するカリキュラム・マネジメント  
— 学びの場を協創する事務職員・共同学校事務室 — [提・補・動]
- 長野支部 テーマ:信州型研修プラン2030子どものために学び続ける学校事務職員  
— 「学び」には未来を変える力がある — [提・補・動]
- 滋賀支部 テーマ:次世代の豊かな未来のために 踏みだそう 覚悟の一步を!  
— 地域とともに創る教育課程へのマネジメント — [提]
- 静岡支部 テーマ:未来へひろがれ!みんなが笑顔になれる学校事務  
— 変えよう 見つけよう つなげよう — [提]
- 愛知支部 テーマ:公務運営改善を柱としたカリキュラム・マネジメントと  
学校事務職員の関わり  
— 現在(いま)の特別を未来の標準へ — [提・補]
- 三重支部 テーマ:はじめの一步 — あなたの描く理想は何ですか? — [提]
- 岐阜支部 テーマ:実現しよう!“ええ顔”あふれる学校づくり  
— 事務職員のリーダーシップ 学校に求められる  
「資源をつなぐ力」 — [提・補]

②オンラインによる動画・資料配信

#### 1) 録画・資料配信

- ・会長あいさつ
- ・文部科学省行政説明
- ・第53回全国公立小中学校学校事務研究大会(埼玉大会)PR
- ・本部研究提案
- ・支部発表
- ・全事研コーナー

#### 2) ライブ配信及び録画配信

- ・本部研究討議

#### 3) 録画配信

- ・シンポジウム



# お礼のことば

第52回全国公立小中学校事務研究会全国大会(岐阜大会)

兼 第52回東海地区公立小中学校事務研究大会

実行委員長 吉田 隆

第52回全国大会岐阜大会は、参集大会中止により紙上発表とオンラインの活用という新たな試みの代替大会として開催されましたが、文部科学省をはじめ多くの皆様のご協力により無事終えることができました。岐阜大会のテーマである「目指す子ども像を実現するカリキュラム・マネジメント」を中心に据えた提案、シンポジウム等が行われ、全事研第9次研究中期計画の推進としての成果を感じることができた大会となったのではないのでしょうか。研究提案だけでなく運営にあたられた全事研役員の皆様方、分科会提案の皆様方には心より感謝いたします。

私たち実行委員会としては、令和2年8月6日・7日、全国の皆様が岐阜市に集い、語り合い、学び、資質向上と自己研鑽はもちろん、子どもたちと学校教育の未来への贈り物「ぎふと」（岐阜と）を持ち帰っていただくよう準備を進めてきたのですが、その思いは叶いませんでした。分科会発表担当の皆様方も同じ思いだと存じます。しかし、この貴重な経験と研究内容は決して無駄にはなりません。必ず今後活かされるものと信じています。特に今回の分科会提案内容は、私たち東海地区各県それぞれの今後の道しるべになる内容ばかりでした。兼東海大会として素晴らしい研究発表をありがとうございました。

今回は参集できない大会となりましたが、従来のように多くの仲間が集い、語り合うことには大きな意義もあります。これからの全国大会はもちろん、次年度東海大会三重県三河大会ではまた多くの仲間が集い、語り合えることを心から願っています。

岐阜大会に対して長期にわたりご支援ご協力いただきました東海地区の皆様方、本当にありがとうございました。



## 視聴報告

静岡県掛川市立和田岡小学校 村松 祐輔

全事研本部研究討議のライブ配信では視聴しながらアンケートに答えたり、コメントが来たりと Web ならではの工夫を討議に盛り込んでいました。今後ますます ICT を活用した研修会が増えると思うので、運営面でも参考にしたい要素がたくさんありました。

普段カリキュラム・マネジメントについて考えることがない私にとって、まず、カリキュラム・マネジメントについて理解することが必須だと痛感しました。「目指す子ども像を実現するカリキュラム・マネジメント」というテーマの中で、子どもの学びの保障と学びの機会のために「先端技術の活用」、「リソースマネジメント」などの提案がありました。いずれも大切な要素ですが、すぐに実践できるものではなく、1つ1つ時間をかけて進めていく必要があると感じました。

コロナ禍で当たり前に行われてきたことが当たり前に出なくなっている時代です。しかし、子ども達にとって本当に必要な教育を見直す好機だととらえ、学校事務職員も行動していかなくてはならないと思います。共同学校事務室の導入や標準的職務の改正など、学校事務職員としても変革の時代です。教育行政職員としての見識を深め、地域や家庭、行政や専門機関と連携して、子ども達の教育を支えていきたいです。

岐阜県中津川市立第二中学校 菰田 貴子

本年度の東海大会は第52回全国公立小中学校事務研究大会（岐阜大会）と兼ねていましたので、全事研による Web 代替事業を学校と自宅で数日に分けて視聴しました。

文科省の行政説明は、「1. ICT の効果的な活用」「2. 少人数によるきめ細やかな指導体制・環境整備」「3. 学校における働き方改革」「4. 令和の日本型教育の構築を目指して（中教審議論より）」の4項目でした。令和の日本型学校教育では、事務職員にも ICT に関する研修の充実が重要だと述べられました。私も週1回3分研修として、校内の先生方と一緒に GIGA スクール研修を受けています。結構面白いので、事務職員の誰もが偏りなく研修できると共創・協働につながるのではないかと思います。

長野県の発表は「事務職員の研修」がテーマでした。興味深かったのは、新規採用事務職員は複数配置校で1年間、先輩事務職員から学び、その先輩事務職員は指導者として研修を受けているところです。岐阜県は本年度から4月1日採用になったのですが（昨年度までは3月25日採用）、基本的に単数配置です。参考にして要望していきたいと思いました。

もう一つ印象に残ったのは「教育事務」という言葉です。事務職員が主にかかわってきた事務業務…「学校事務」からステップアップし、事務職員が日々行う業務だけでなく、学校、教育委員会、自治体、保護者、地域全体に関わる教育分野の事務全体…「教育事務」を検討していくというものです。一人職である私たちは共同実施などによって複数で業務を行い、

共に課題解決していく仕組みができつつあります。今後さらに教職員や教育機関と連携してこれを研究することで、働き方改革を推進できるというのは興味深いものがありました。

最後に、本部研究提案の指導助言者、愛知教育大学 風岡治 准教授のお言葉が、この研修を総括しているように思いました。「変化に立ち向かう意思や知恵を持ち、組織と人をつなぐ役割を担い、教育経営活動にイニシアチブを発揮しうる人材として組織の力となる事務職員を目指して欲しい」

三重県伊賀市立友生小学校 福壽 寿代

新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため、今年度は誌上発表とオンラインによる代替大会となりました。

このような発表の中、文部科学省行政説明においては文部科学省大臣官房審議官、蝦名喜之氏による文部科学行政をめぐる最近の情勢について①ICT の効果的な活用、②少人数によるきめ細かな指導體制・環境整備、③学校における働き方改革、④中央教育審議会における議論「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、と4つの視点でお話を伺いました。

その中でも、ICT の効果的な活用について今、事務職員が共有しておかなければいけない情報について理解することができました。ICT の活用はもとより「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現」させるために ICT の環境整備に関わっていかねばいけないことがわかりました。

全事研本部研究討議のライブ配信を「地域とともにある学校のカリキュラム」について学校事務職員がどう取り組んでいけばいいかという視点で視聴しました。

ライブ配信では「地域とともにある学校のカリキュラムを実現するために、事務職員はどのような取組を行っていくべきだと考えるか」という問いに対しても様々なコメントが寄せられていました。

現在、地域の方には直接学校に入っていくことが厳しい状況ではありますが、カリキュラム実現のために、カリキュラム・マネジメントを担う事務職員・共同学校事務室の役割として地域の情報の収集、分析、データの活用、事業別予算の編成・執行等を行い、子どもの豊かな学びを保障するために事務職員が携わっていく意義を考えさせられるライブ配信でした。

今回、参集型ではなくオンライン形式のライブ配信となりましたが、リアルタイムでコメントも寄せられ討議に直接参加することができ、今後の学校事務の方向性を共有できる貴重な機会となりました。

# 第53回 東海地区公立小中学校 事務研究大会

学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生  
～さんしゃいん  
子どもたちの未来を輝きでいっぱい～

©四日市市  
こにゅうどう  
くん

四日市市 美しい工場の夜景



菰野町  
御在所ロープウェイ



©菰野町  
こもしか



令和3年11月26日(金)

午前10時 開催

in 四日市市文化会館



川越町  
テラ46



川越町  
キラキラ鳥



朝日町



小向八王子祭り



©朝日町  
アーミン

主催：東海地区公立小中学校事務研究会  
主管：三重県公立小中学校事務研究会